

じゅけい あがりこ型樹形コナラ

▶柴倉山山麓 薪平のあがりこ樹形のコナラ



町内の集落周辺のブナやナラ類の二次林の中に、地上2～3mほどの高さで幹が肥大化し、そこから多数の枝が発生してほうきをひっくり返したような奇妙な形をしたブナやナラ類の樹木を見ることがあります。こうした樹形は、かつての地域住民が雪上で幹を伐採し、そこから伸びる多数の萌芽枝を繰り返し利用したことで形成されたものです。伐採された枝は燃料として薪などに利用されました。樹木の特性や雪上での材の運搬のしやすさなど理解した先人の資源利用の知恵の一つと言えます。

このような過程で形成された樹形の奇木は、只見町のみならず東北地方にも見られ、特に鳥海山山麓ブナの奇形木は「あがりこ」と呼ばれており、同様の樹形は「あがりこ樹形」と形容されます。只見ではあがりこと呼ばずに「モギツキ」などと呼ばれます。あがりこ型樹形の樹木の存在は、人間と樹木、あるいは森林との関わりの履歴であり、遺産と

も言えるものです。こうした奇木は時と共に廃れていきますが、幸いに私たちはこれらを目の前にしてその歴史や技術を学ぶことができます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」と「ふるさと館田子倉」の入館料が改正となりました。あわせて、町内の小・中・高校に通う児童・生徒は入館料が無料となります。新学期になりましたら各学校を通じて利用証をお渡しする予定です。

・入館料改定日：令和2年4月1日

・変更後の入館料：高校生以上310円(260円)、小中学生210円(160円)

※()内は20名以上の団体料金

※同一のチケットにて「ただみ・ブナと川のミュージアム」と「ふるさと館田子倉」の両方に入館できます。

詳しくは、只見町ブナセンターまでお問い合わせください。